

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

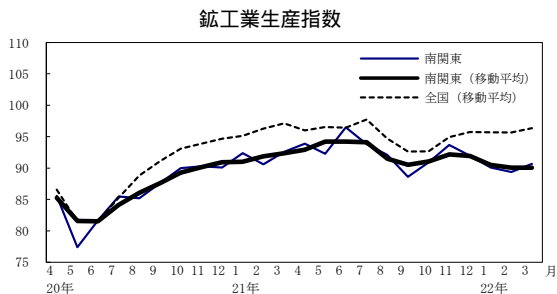
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年3月)	今回 (令和4年6月)	
景況判断	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	持ち直しの動きがみられる	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

1-3月期の鉱工業生産は、「輸送機械」や「石油・石炭製品、化学、プラ製品」が減少したこと等により、前期比2.3%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	1.1	▲2.7	▲1.4	▲3.6	1.5
輸送機械	14.1	9.6	▲5.4	▲14.2	9.3	5.0
汎・生産・業務用機械	13.7	2.3	▲0.8	2.9	▲1.5	1.8
電子デバ、電気・情報通信	12.6	▲3.8	▲2.5	2.8	▲6.4	▲0.7
食品・たばこ	12.4	0.1	—	▲2.3	0.1	—
鉱工業	100.0	0.8	▲2.3	▲2.1	▲0.8	1.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1-3月期、3月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

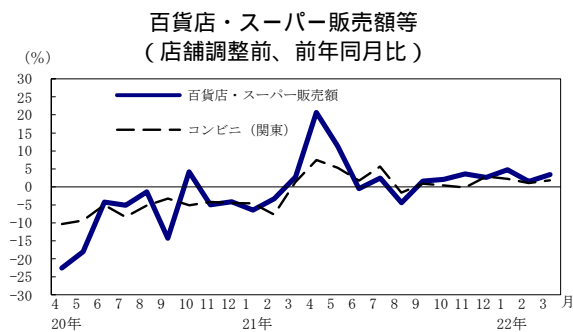
個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

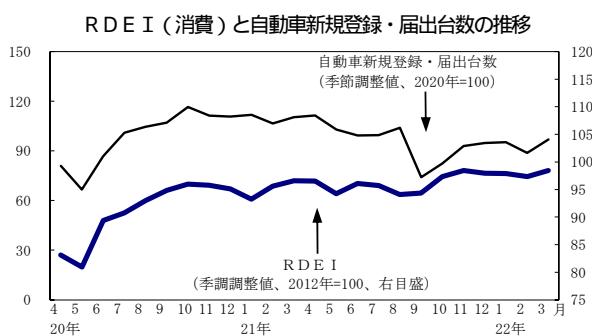
1-3月期は前期比0.0%減となった。月別にみると、1月は前月比0.0%減、2月は同0.6%減、3月は同1.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1-3月期は前年同期比3.3%増となった。月別にみると、1月は前年同月比4.8%増、2月は同1.5%増、3月は同3.4%増となった。



	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	▲0.0	▲0.0	▲0.6	1.1
百貨店・スーパー(*2)	3.3	4.8	1.5	3.4
コンビニ(*3)	1.7	2.2	1.1	1.8
乗用車(*4)	▲14.9	▲15.8	▲16.9	▲12.9
(季節調整値)(*4)	3.9	0.5	▲6.9	9.2



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

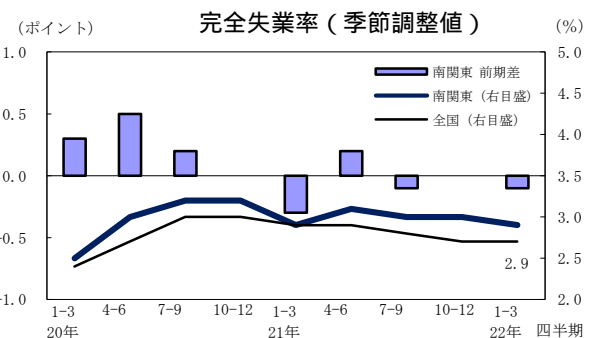
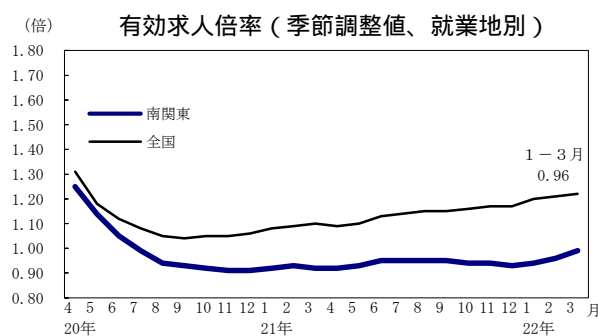
コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・ 来客数は少し落ちているものの、客単価は上がっている。これは、買上点数が落ちていて、1点単価が上がっているという感じなので、全体的には3か月前と変わらないが、余り良くない状態が続いているという感じである (スーパー)。
		・ まん延防止等重点措置が解除され、県民割など旅行への補助も出るようになり、国内個人旅行は動きが活発になってきている。特に、近場の客が少し遠出をするような傾向がみられる (旅行代理店)。
		・ 3か月前と比べて景気は良くなっていない。ウッドショックの影響がまだ続いていることに加え、ウクライナ情勢もあり、地価も高い水準でプラス要素が見当たらない。新築売りアパート事業には厳しい状況である (住宅販売会社)。
	企業 動向 関連	・ 海外での新型コロナウイルス禍はまだ収束のめどが立っていない。今年度、自動車メーカーは前年の減産分をばん回すことをもくろんでいたが、現在のところ当初計画の減産を余儀なくされている (輸送用機械器具製造業)。
		・ 材料の納入遅れや価格の高騰で受注が減っている。同業他社も同じように見積案件が減っている (建設業)。
	雇用 関連	・ ゴールデンウィークに向けたイベント等が多岐にわたり実施される方向であり、それに付随する販促案件が非常に多く動き出している (出版・印刷・同関連産業)。
・ 飲食及びサービス業の求人数が増加しており、新型コロナウイルス後を見据えた採用を積極的に進めている状況にある。情報通信業は新型コロナウイルスの影響からいち早く抜け出しており、継続的に求人数を伸ばしている (職業安定所)。		
その他の特徴 コメント	・ 3か月前と変わらず求人数は多く、人材不足の状況が続いている (人材派遣会社)。	
		： 前月末にまん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス感染者数が高止まりしているなかではあるが、徐々に直近での予約が増え始め、販売量も回復傾向にある。企業での接待や官公庁、学校などの歓送迎会は皆無だが、県民割などの支援が始まり、宿泊やレストランなどへの影響は大きい (都市型ホテル)。 ： いまだ半導体不足の問題が解決されていない (乗用車販売店)。
先行き	家計 動向 関連	・ ゴールデンウィーク後、新型コロナウイルスの感染が再び広がるのではないかと懸念している。また、原材料などの値上がりが続く、まだまだコストが上がりそうなので、消費者の購買意欲も落ちるのではないかと (一般小売店 [和菓子])。
		・ 休日の客単価が伸びている。価格は値上げしているが、関係なく来客数も増えているので、ウィズコロナとして、一定の客の動向に回復傾向がみられる (一般レストラン)。
	企業 動向 関連	・ ロシアとウクライナ問題、原材料の価格アップ、新型コロナウイルスの問題など、解決していないことが多いので先は非常に読みにくい (金属製品製造業)。
		・ 受注量が減ってきている。物資が入らず、生産計画どおりに生産ができず、物価や人件費の高騰が追い打ちを掛けている。中国上海のロックダウンは影響が大きいと予測している (精密機械器具製造業)。
	雇用 関連	・ 求人の動きが落ち着いており、新型コロナウイルス特需のようなものも今後は見込めない。製造、物流、事務のオーダーは堅調であり、今後も維持できる見込みである (人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント	： 県民割等で行楽や旅行が少しずつ増えていくと、外出着の需要が増す (衣料品専門店)。 ： ウクライナ情勢悪化による影響が、値上げだけでなく、来客数にも少なからず出てきている。また、新型コロナウイルスも収束してはいないため、先行きはまだまだ不透明である (コンビニ)。	

(D I) 現状・先行き判断 D I (南関東) の推移 (季節調整値)

